LUZ の熊野古道案内

2006年 1月 下 1月22日 ~ 31日

je2luz.exblog.jp

目次

2006年 1月

- 1月23日 不要の長城? 高速道路
- 1月24日 祝えない高速道路
- 1月25日 緊縮財政の配分・・・熊野古道・伊勢神宮
- 1月26日 寒波・・・南方気質
- 1月27日 鯵 (あじ) の丸干し
- 1月28日 普通に見られた植栽
- 1月29日 海と山の熊野らしく
- 1月30日 シダ王国らしく2
- 1月31日 熊野古道便乗公共事業・三重県編

2006年 01月 23日

熊野の旅 不要の長城? 高速道路

本当なら 『祝・開通』 と銘打つのでしょうが・・・

この3月11日午後3時に紀勢自動車道の勢和多気ジャンクションから大宮大台インターまで13.4Kmが開通します。

紀伊半島をネックレスのようにぐるっと縁取る形の国道 4 2 号線と平行に計画されている高速道路が南下始めています。ここは道路公団部分です。これから先の部分はややこしいことになっています。

この高速道路が計画路線・実施路線と格上げ運動中に道路公団の作る道路に対する 風当たりが強くなり、不採算路線に対する予算が付きにくくなってきていました。そ こで、旧三重県二区の大物代議士が考え出したのは、見込みの無さそうな南の端っこ あたりを『国の直轄事業』でやると言う方法です。その名も『高規格道路』という国 道のバイパスです。規格は公団の高速道路と同じにして将来はそれとつないで一体化 するというものですものすごく頭の良い方法です。出来ないかもわからないものを出 来るようにする、端っこが出来ていればその間を無視できないだろう…と言うのです からね。

その部分は尾鷲・熊野間です。今、尾鷲側から工事中です。延長 30Km ほどで今の42号線がまっすぐ山に向かったのに対し分水嶺の海側を通ります。JR 紀勢線よりは山の中腹をとおり短縮されますがやはりトンネルの連続です。完成が何時かしかとは知りません。

なぜ、『祝』と書かないか・・これは次回に書きます。



ここは国道 4 2 号線『佐田坂』の頂上、『小阪トンネル』出口です。これから **8Km** 下ると大泊・・・太平洋です。 by **je2luz** | 2006-01-23 11:01

熊野の旅 祝えない高速道路

高速道路が一部開通したのに『祝』と書きませんでした。

それはこの『紀勢自動車道』だけではなく、田舎に作った高速道路全般に言えることです。

確かに、立派な道が入って東京からの時間は短縮されます。しかし、それがどうしたの?と言うのが現実です。田舎が疲弊してしまい最早田舎から都会へ運ぶものもなし、かつての物の生産拠点であった田舎が今では単なる消費地になってしまっているのです。

インターチェンジがあっても使い道が無く管理人の日当も出ないほどになり、ましてインターチェンジの無いところでは狭い山間部の上空を大蛇のような高速道路がのた打ち回るだけです。

ここ紀州で言うなら、かつては新宮、熊野周辺の製材所から毎日十数台運んでいた 材木運搬のトラックもほとんど無し、パルプ工場閉鎖で関連のトラックも姿を消しま した。漁業は漁獲高の減少で大型保冷車で運ぶことも少なく行き先は山越えの大阪方 面です。紀州御影石の出荷も石工の賃金上昇、労災費の高騰などで輸入石材に太刀打 ちできず、白蝋患者だけを残して壊滅状態です。あまり変わらず外に出ているのは季 節産物のみかんくらいのものです。安値に泣くみかん、秒・分を争うものでもない荷 物は有料道路は走れません。こうした産業面では計画段階でのばら色予測は『作るた めの数字』なのです。観光客の見込みなども絵空事なのです。だから、全国、車の走 らない高速道路だらけなのです。何も『紀勢自動車道』だけではないのですが…



高速道路の負の面は景観の破壊だけではないのです。この紀勢自動車道は空気の汚

染や騒音で問題になるような通行量はありません。だから、自然の中に異様なコンクリートの帯が横切るだけに見えますが、一番困るのは細々と維持している田舎の加工業が根絶やしされることです。林業・漁業は道路が良くなると丸太のまま、船から降ろした鮮魚のまま産地形成されたところへ『原料』として買い取られ運ばれてしまうのです。よく売れたように見えて、人件費・加工賃で生活していた田舎を破壊するのです。もうすぐ、この紀伊半島南端もその波がやってくるのです。その負の面が大きいので『祝』とかけないのです。年に一度も使わないのに…

カメラは ミローナ 2・チェコスロバキア製 by je2luz | 2006-01-24 10:5

2006年 01月 25日

熊野の旅 緊縮財政の配分・・・熊野古道・伊勢神宮

伊勢神宮の式年が近づいています。20年に一度と言うと長いようですが、準備から言うとのべつやっているくらいです。これくらいの間隔でやら無いと技術の継承ができないのでしょうが総桧造りの社殿を20年でやめるのですから伊勢の神様は贅沢な神様です。

三重県もご多分に漏れず最悪の財政状態なので06年予算は前年度比マイナスだそうです。この中で伊勢神宮の式年と熊野古道を核とした観光事業に力を入れるとか...

神宮に直接予算を入れることは憲法上で来ませんから取り巻きの事業と例のポスター作りなどに大金を放り込むのでしょうね。役所のやる仕事は金銭感覚が狂っているので恐ろしい金額をいとも簡単にかけてきます。受注する側にはおいしい話が多いですね。

熊野古道のほうにも予算を回すようですが、ピントのずれた方向に使うのかと思います。熊野市内では何をやるやら…鬼ヶ城の観光施設、売店などが閉鎖寸前なのですがこれが官営になる可能性も大有りですね。駅前に観光公社を作ったくらいですからね。

今時観光地の売店では物は売れません。それも、紀伊半島とか遠方になるところでは客が見込めませんね。テレビなどで大々的に放送するところでも実態は???のところが多いのが現実です。1ドル110円などと言う相場が続く間は国内の旅行は冬の時代です。便利なところでは、もう、行くところが無くなった人、熊野古道などに興味の有る人、飛行機が怖い人…などが見込み客です。

昔は行楽シーズンともなると観光バスに1号車2号車…などと札を貼った団体さんが南紀勝浦を目指して南下してきたものです。若しくは熊野市駅まで列車で来てここからバスを仕立てたものです。そうした光景はもう何年も見たことが無いですね。 自家用車のアンテナにテープをつけた個人客の車列も見かけませんね。役所の言う 『入込み客』と言う観光客数は昔の半分以下なのです。その流れを○○会館とかで止めようなんて…もう、何十年も…何十億も放り込んでいるのにね。

何が出来るか楽しみにして置いてください。

ちなみに木本町の本町通を石畳にする計画が動いています。歴史上一度も石畳のあったことの無い浜街道ですが・・・



熊野市木本町・本町通・・・まもなく石畳にするとか・・・県道木本停車場線 by je2luz | 2006-01-25 10:57

2006年 01月 26日

熊野の旅 寒波・・・南方気質

今年は各地で冬将軍が猛威を振るっているようです。記録的な豪雪で生活も麻痺しているところが多いようですね。

この寒波と言うものは場所によって随分差が出ます。日本海側では豪雪と言われて も、雪雲がそちらで雪を使い果たすのかこの辺りでは例年より雪がちらつくことが少 ないようです。

しかし、寒さは例年以上らしく庭の冬野菜の生育が極端に悪いですね。山間部と違いこの海岸線では霜が降りる心配はなく真冬でもすくすくと育つのですが、今年はいささかいじけ気味です。しかし、夜盗虫は元気で卵を産むらしく黒い幼虫がちらほら見られます。寒の最中に夜盗虫が産卵して増えるくらいですからまだまだ暖かいのでしょうね。

我が家の庭には南方系の観葉植物とグアバが植えてあります。グアバは意外と丈夫で雪がかかっても冬を越すのですが、今年はかなり寒いらしく葉の色が赤くなっています。それでも春の息吹を感じるらしく新芽を伸ばしかけていますね。

これくらいの気候なので『寒いのう…』が挨拶になっていてもオーバーなど着込んだ人はいませんね。手袋無しの人がほとんどです。

人類、寒いところのものが勤勉で南方が怠け者と相場が決まっているようです。それが世界中の南北格差になって現れているようです。この辺りは冬の被服費や暖房費が余りかからないのです。秋田県辺りと比べると年間にすると一家で20万円くらいの差が出るそうです。以前に熊野市の開発のコンサルに来ていた野村総合研究所のえらいさんが『この辺に人は働きませんね。食い詰めて一家心中する人もいませんね。典型的南方気質ですね』と、正直な話をしましたが、その通りのんびりしています。

所得は本州で最低レベルなのですが…あまり稼ごうともしないので無理やりこじつけの名産品をでっち上げて土産物にしようともしません。全国中蔓延する俄仕立ての名産品は少ないです。売店でもめぼしいものはありませんね。役人は何とかそれを作り出そうなんてしていますが、無理やり作り出しても仕方ないのでは…と、南方気質の私は思います。

写真は寒そうに震えるグアバの木です。



by je2luz | 2006-01-26 10:50

2006年 01月 27日

熊野の旅 鯵(あじ)の丸干し

熊野名産と言うと『さんま』と言うことなので、丸干しも『サンマの丸干し』ばかりが宣伝されます。しかし、地元でおいしいとされるのは『鯵』の方です。鯵は小魚の王者でもあり干物にしても「味」がありおいしいものです。

写真の『鯵の丸干し』は少々小さすぎます。豆鯵の部類で体長 5~7 c m くらいしかありません。さっとあぶって頭から食べるのですがこの小さなやつは食べよいのですがもう一つ味がないのです。脂の乗り具合とかが子供過ぎるのでしょうね。頭や骨が硬くなくて食べよいと言えばそうなのですが…

この大きさのものはその分安く出回ります。このときでスーパーで一匹4円ほどです。しかし、これなら開いて畳いわし状に何匹も貼り合わせてみりん干にしたほうがおいしいですね。

あじの丸干しで本当においしいのはこのサイズのすぐ上のものです。体長 $9\sim12$ c m くらいのものです。丸ごと食べることも出来るし味も出ています。食べるならこの大きさです。それより大きいものになれば丸干しより開きに向いています。

アジの丸干しだけでなくサンマの丸干しでも焼きすぎないことがコツです。表面にポツポツ焦げ目がついた程度で上等です。水分が少ないのですぐにやけが通ります。こんがり焼け目をつけるまでやるとカチカチになって尻尾に方などは猫でもかじれないほど硬くなります。

丸干しの骨を取りたいときは普通の魚のように箸でほぐさないで、手にとって背中とお腹を指でつまんでつぶすようにするとポコンと割れて三枚に下ろしたようになります。こうすれば骨に肉は全然つきません。猫が喜ばない状態の骨になります。そうしてからお腹の小骨を箸でなぜればこれも難なく取れます。もっとも、ここまでして食べるとせっかくの青い小魚を食べても栄養分はかなり減るでしょうね。やはり、あまり大きくなくておいしい 10cmほどのものを頭から骨ごと食べるのがいいでしょうね。ただ、四国、紀州ではどこでもあるのに都市部特に関東には丸干し文化がないので売っていないでしょうね。三重県・和歌山県・高知県の物産展に行けば手に入ると思います。



by je2luz | 2006-01-27

2006年 01月 28日

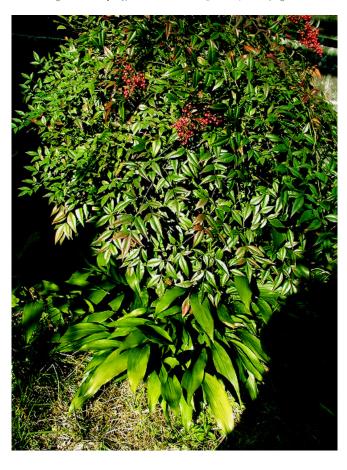
熊野の旅 普通に見られた植栽

昨日は丸干しについて書きました。

丸干しに限らず魚のおすそ分けと言うのが昔はよくされていました。やはり漁師町が町の一角にあるからかもしれません。漁師の人が魚を呉れるときはかわいくない量を呉れます。小魚をバケツ一杯とか、サンマの干物を100匹とか…どうせなら5回くらいに分けてくれればいいのに…などと思うような量です。これは漁師さんに限らず業務の感覚は少し一般とはずれますからね。私なども「薪が欲しい」と言われるとリフトのバケットに一杯とかトラック一杯運んでいって庭先に下ろしてきましたからね。ただのときはこんなものです。

こうした魚のやり取りのときに活躍したのがどこの庭にでも植えられている『葉ラン』と『南天』でした。この写真は駐車場を作るときにどかした昔の庭木の一部です。 南天の根じめに葉ランが植わっています。典型的な植栽がそのまま移ってきています。 南天は足元がすいてしまいますからね。それと、「葉ラン」はいまではビニールのも のになっていますが日本ではお弁当の仕切りや盛り物の飾りに欠かせないものです ね。

庭先から葉ランを取ってきてさっと洗い、その上に干物や魚を乗せ、お盆に載せて持っていったのです。魚がすごく引き立ちます。葉ランを使わないときには「南天の葉」を使いました。これも魚が引き立ちます。更に紙では魚に張り付いて始末が悪いです。ビニールとかの無かった時代には必需品だったのです。だから、ほんの少し庭があると葉ランや南天が植わっていたものです。いまではこうした使われ方はほとんどしませんね。ただ、植わっているだけです。



by je2luz | 2006-01-28 11:02

熊野の旅 海と山の熊野らしく

熊野古道を歩くとほとんどが山の中です。山は岩山とか禿山ではなく木々に覆われた暗いほどの山道です。近年は山林の管理が行き届かず余計も暗いところが増えています。

『箱根の山は天下の剣・・・・・昼なお暗き杉の並木・・・』と箱根を歌いますが、今の箱根にはそれほどの杉並木は残っていませんが熊野古道は杉・桧の森の中を進みます。

その中で桧には『ヒノキチオール』などという桧の名前の入った殺菌剤が含まれるようですね。桧特有の匂いの元とか言われています。その殺菌剤があることで『まな板』に良いといわれています。そんなことなど分からない昔からまな板に使われてきましたね。これは杉ではやわらかすぎて刃物傷が入りすぎるし、幅広の板が簡単に手に入ってきれいなのは桧が一番だからと言う面があと思います。いうほどの殺菌作用があるなら逆に危険かもしれませんね。それに単純に材木の『カビ』を言うなら『杉』の方が生えにくいです。桧はすぐにカビが生えるものです。

この桧の葉っぱは杉と違い平らなので南天や葉ランの様に魚の下に敷いて使われます。これも葉から出る殺菌成分の利用は経験で持ちが良いくらいのことだったのでしょうが、昔は良く使いました。強烈に匂うのですが意外と香りは移りおません。

マグロの切り身などはこの辺りでは皮付きの塊にして運びますから、皮を下にして 桧の葉に乗せました。桧の葉の緑がマグロの赤を引き立てて美しく見えます。干物な どもこれに乗せると銀色に輝いてきれいなものです。それに乾きすぎるのも防いでく れます。



桧の葉はかなり長い間緑のままでいます。その間は葉がぱらぱら落ちることはありません。しかし、茶色く枯れるとうろこ状の葉が一つ一つちぎれて落ち始めて厄介なものです。残るのは芯の部分の細い枝だけです。脂も多くて生でも燃えるほどなのにかまど時代の着火材料『焚きつけ』には使えなかったのです。

桧の葉を魚の下に敷くなどは海のそばまで山が迫っている地方ならでしょうね。 お江戸日本橋の百貨店での物産展に出かけた頃にこの桧の葉を荷物と一緒に持っ てゆくと欲しがる人が沢山いてあげたのですが半年ほどしたら部屋がごみだらけに なったのではないかと思います。

by je2luz | 2006-01-29 11:42

2006年 01月 30日

熊野の旅 シダ王国らしく 2

昨日の記事ではタイトルの『シダ』にたどり着けませんでした。

紀伊半島は黒潮のおかげで気候が温暖で雨もものすごく多いと言う条件です。気温は多少低くても熱帯のジャングルのように『羊歯』の生えるには適した気候のようです。

日本では北に行くと山の下生えには熊笹などの笹が多くなります。そのため山の茂みを掻き分けると言うのは『笹原』をこぐと言うイメージの人が多いと思います。しかし、ここ紀伊半島では笹の勢力より羊歯の勢力の方が勝ることが多いのです。羊歯に適した気候なのでしょうね、日本に生息する羊歯のかなりの部分がこの辺にあるとか言われます。私などは門外漢なのでウラジロ・コシダ・ビンロウジュくらいしか名前も知りませんが普通に目にする羊歯でもかなりのものがあります。

こんなに一杯生えている羊歯の中で生活に取り入れられていたのは図体が一番でかくどこにでも生えている『ウラジロ』です。これは地方によってはお正月の門飾りに使っていますね。名前のとおり裏が白い羊歯で普通胞子は抱いていません。大きなものになると片方の葉で大人の腕の長さは楽にあります。大人が腕を差し出したような感じで葉を広げています。



こんなに一杯あって葉がきれいで、気持ちの悪い胞子など撒き散らさないものを利用しない手はないと、この葉っぱも魚の下に敷いていました。表のきれいな緑の面を

上にして魚を乗せると、南天や葉ランと同様に魚が引き立ちます。

こうして魚と山がしっかり結びついて生活してきました。見た目もきれいですし、 くっつかないで済むからありがたかったのでしょう。更に、葉っぱの蒸散作用で乾き すぎを防げたものと思います。しかし、今ではほんの飾りとして葉っぱをあしらうこ とはありますがビニールやサランが使われて葉っぱ類が主力になることはなくなり ました。こうした使い方自体が忘れ去られるのでしょうね。

by je2luz | 2006-01-30

2006年 01月 31日

熊野の旅 熊野古道便乗公共事業・三重県編

熊野古道を世界遺産にねじ込んだのは前の三重県知事の北川さんの力が大きかったことは何回か書いてあります。

そもそもの出発点は、『三重県南部・・・東紀州は県中央や北部に比べ産業もなくいろんな面での格差が目立っているので何とかしよう。』と、言うことでした。それ以前から『東紀州活性化計画』などという施策を試みていましたが遠い、平地がない、資本がない、土地は高い…と言うようななんともならない条件で頓挫していました。

観光とて鬼ヶ城・勝浦・潮岬など名前は通っていてもかつてのように観光客は来なくなっています。こんな状態では役所の大好きな箱物を作る口実もありませんでした。 世界遺産指定は全く良い口実になりましたね。

当然、地域活性と言う名目もあるので国の金も引っ張り出しよいですしね。この傾向は以前から書いてきました。

必要だから作る・・・のではない、役人考えの巨費をかけて役に立たなさそうな熊野古道関連施設が又一つ出来るそうです。

隣町のことなので悪く書きにくいのですが県営事業なので構わないでしょう。

『熊野古道センター』(仮称)だそうです。来年二月に尾鷲市向井にオープン予定だそうです。敷地面積2240平方メートルで施設の1/8が古道関連の資料室で残りは『多目的交流ロビー』や『体験学習室』などだそうです。このような名目は全国津々浦々にある目的のない建物の目的なのです。

立地からして普通の観光客が歩く場所とは程遠い場所です。そして、わざわざ行くようなものにはなりそうもありません。おまけに、県営事業には良くあることですが地元からは遊離している証拠に着工寸前の今になって尾鷲市議会に説明したそうです。議会に対してでもこれですから…

国や自治体のやっていることは、無駄でも当事者はすごく良いことを考え付いたと 思ったのでしょうね。立派な宿泊施設や公園や会館を作ればどこかから客は沸いて出 るだろう、土産も売れるだろう…なんてね。 年間84,000人の利用客を見込んでいるそうです。どこのコンサルタント会社が書いてくれた作文でしょうかね。しかし、賢いのは『赤字だ!』といわれないように無料開放の予定だとか…

役人も賢くなってきました。無料なら会館の維持費千万以上は予算どおりに消化され来場者不足などもどこにも報告しなくて良いですからね。おまけに県職か校長先生上がりの天下り先が増えますしね。たいしたものです。

こうした建物のお好きな方も沢山いらっしゃいます。そういう向きには来年三月ごろにぜひ訪れてやってください。向井と言うと尾鷲湾がきれいに見えてきれいなところです。目の前の『尾鷲・三田火力発電所』がなければもっと良いのですが…



by **je2luz** | 2006-01-31 11:57